

救急患者をチームワークで救う！

中央林間病院は「できるだけ断らない救急」を目指し、日中・夜間の救急医療に取り組んでいます。当院は116床の中規模病院で、決して十二分な体制ではありませんが、医師・看護師・技師それぞれの「専門性」と「チームワーク」で、救急患者さんの受入に努めています。

今回は、救急医療の最前線を務める、医師、看護師、放射線技師へ「救急医療の現場の声」を聞いてみました。救急医療への志しや取り組みを紹介します。

医師 ～限られた手段でも素早く診断・治療を～

夜間の救急で大切なことは？

夜間はスタッフが少なく、できる検査も限られています。その限られた手段できちんとした診断をつけられる判断力、経験、知識が必要です。また当院で対応できない、急性脳梗塞や心筋梗塞などの患者さんの場合は他院へお願いすることになります。緊急時はもちろん、普段からの医療機関同士の連携が重要です。

当院の特徴は？

＜河野診療部長＞ 少人数ですが、スタッフ全員一丸となってチームワーク良く動くことです。救急診療を担当するスタッフだけでなく、病棟スタッフも救急患者さん受入れのベッド移動などで協力してくれます。

当院ならではの取り組みは？

平日24時間、吐血・下血の患者さんを受入れ緊急内視鏡をできる体制をとっています。夜間の呼び出しなど大変な部分もありますが、当院でできること、得意なことで大和市の医療に貢献したいという気持ちでスタートしました。救急隊の中でも「消化器系の緊急患者さんは中央林間病院へ」と認識されているようです。



＜内視鏡検査の様子＞

今後の取り組みは？

救急医療の勉強を院内で行いたいと考えています。より多くのスタッフで地域の救急医療に貢献できるようになればと思います。

看護師 ～トリアージで患者さんのつらい時間を最小限に～

夜間の救急現場で大事なことは？

限られたスタッフで多くの患者さんに対応する必要があります。そのため、重症患者から迅速に診られるように優先順位をつける「トリアージ」を行い、医師の診療がスムーズ進むよう心掛けています。

救急医療ならではの充実感とは？

患者さんが良くなって無事に帰っていただけることが一番です。患者さんのつらい時間はできるだけ短時間にしてあげたいですね。

当院の特徴は？

チームワークがいいところでしょうか。スタッフの人数が少ないため、お互いを補いながら取り組んでいます。医師・看護師・技師・病棟スタッフなど病院全体で互いに助け合っています。

今後の課題は？

今は薬を出すことも看護師が行っていますので、薬剤師が夜間対応できる体制を取れるようになると助かります。その分、自分たち看護師が患者さんに対応できるようになると思います。

＜松嶋看護師＞

放射線技師 ～答えのある画像を医師へ提供

救急現場で心がけていることは

限られた時間のなかで医師が的確な診断を行えるよう、何を疑い何を見たいのか、また何を否定したいのかを考え「答えのある画像」の提供する事を心がけています。

大変なことは？

当院では当直やオンコール（夜間救急の呼び出し）により、24時間・365日、画像撮影をできる体制をつくっていますが、それを維持することは大変です。また、医療も機器も日々進化して

いるのでそれに対してより早く臨床に活かせるよう研修に参加し知識を養っていく必要があります。

当院ならではの取り組みは？

救急患者さんには「迅速超音波検査」を行うことがあります。処置を受けている患者さんに同時に超音波検査を行い、迅速な診断から迅速かつ的確な治療へと繋がるようにしています。また、私たちは技師ではありますが、夜間は人手が少ないので、手が空いたときは他のスタッフの助手となって対応もしています。



＜迅速超音波検査の様子＞

＜鈴木技師長＞